

# 活動報告書

# 2024

vision

障害や難病<sup>※1</sup>を越え、互いに学び合い、  
誰もが自らの望むように生きられる社会

 THINK  
 POSSIBILITY

「社会参加を身近に」

 THINK  
 UNIVERSAL

「知らないを知る」

※1 難病：私たちは、国が定める指定難病の他に希少疾患や研究途上の難治性慢性疾患などを含めて難病としています。

※ 両育（りょういく）とは：立ち上げ当初の活動の中で、知的障害や発達障害のある子どもたちとの関わりから生まれた私たちの造語です。  
支援する一されるの関係ではなく、お互いが関わり合い、試行錯誤しながら学び合い、育み合って生きていくという概念を表しています。

 両育わーるど

# 2030目標 2030宣言

2024年度、両育わーどでは、ビジョンの実現に向けて「両育わーど2030 目標と宣言」を策定しました。

この取り組みは、THINK UNIVERSALやTHINK POSSIBILITYをはじめとする各事業の現場スタッフやマネージャーと共に進めてきたもので、実際の現場から生まれた声や課題意識を土台としています。医療・福祉・教育・就労など、異なる領域で活動する仲間たちが垣根を越えて集い、どうすれば、障害や難病を越えて、誰もが自らの望むように生きられるかを一緒に考え、言葉にしていきました。

この目標と宣言は、スタッフからプロボノまで、関わるすべての人が同じ方向を見ずえ、ともに歩んでいけるようにと願ってつくられたものです。単なるスローガンではなく、それぞれの実践に根ざしながら、未来に向けた具体的な行動の軸となることを目指しています。

現在は、策定した内容を外部にも共有しながら、関係者や協力団体との対話を重ねているところです。このプロセスそのものが、私たちが大切にしている「関係性を育む」実践でもあります。2030目標と宣言は、今後の両育わーどでの活動やサービスづくりの指針となり、「ともに育ち、ともに生きる」社会への一歩を示すものです。

対象	2030アウトカムと指標	2030宣言	2030に向けた活動
難病者	<p>難病者が安定して働いている</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>セルフコントロールサポートサービス提供による安定就労継続数</li> <li>難病者の働くことへの満足（「時間的柔軟性」「心理的安全性」等のアンケート）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>難病者が安定して働くためのサポートサービスを新たに提供します</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>セルフコントロールサポートサービス</li> <li>当事者サービス広報</li> </ul>
難病者を支える人/組織/行政	<p>難病者が「時間的柔軟性」かつ「心理的安全性」のある働き方ができるよう活動する支援者・支援団体・支援機関・行政が増えている</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>サポーター育成を受講した支援者・組織数</li> <li>法人サイトにおけるアライのエピソード掲載数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの支援者、支援団体・機関、企業、行政が難病者の就労支援を当たり前に行えるようにサービスを提供します</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サポーター育成</li> </ul>
雇用者/職場	<p>難病者を積極的に雇用しながら事業の「成果」もだす雇用者・職場が増えている</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>両育わーどでの両立支援を受ける雇用者数</li> <li>雇用者・職場の「成果」「受け入れの抵抗感」「従業員心理的安全性」変化（アンケート）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>難病者を積極的に雇用しながら成果を出すことにチャレンジする雇用者との協働を進めます</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>両立支援サービス（コーディネーションとワークショップ）</li> <li>認知啓発発信</li> </ul>
応援者/ともに活動する仲間	<p>障害者、難病者わけへだてない多様な働き方の実現に協力する人が増えている</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>寄付者・協力者数</li> </ul> <p>両育わーどが「時間的柔軟性」「心理的安全性」を満たしつつ「成果」を出す働き方を実践している</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>有効な仕組みの掲載数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な働き方の実現に協力する人をもとめます</li> <li>「時間的柔軟性」「心理的安全性」をみたとしながら「成果」を出す働き方を実践します</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>寄付プログラムの運用</li> <li>認定取得</li> <li>共に働く実践と発信</li> </ul>
議員/立法	<p>（指定難病者だけでなく）就業の困難性の高い難病者が障害者雇用の対象（法定雇用率）になっている</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>難病者の法定雇用対象化</li> <li>難病者の就業の困難性の判断基準導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>難病者の就労問題に関して難病団体がまとまり、大きな声として発信できるように働きかけます</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究会運営</li> <li>議員連盟活動への関与</li> </ul>
雇用者/職場	<p>就業の困難性の高い難病者の障害者雇用の採用が広がっている</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>難病者の障害者雇用数</li> </ul> <p>障害者雇用枠に限定されない多様な採用形態で難病者の採用が広がっている</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>難病を開示した人の採用数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>難病者を雇用することにメリットがあり、労働力不足の解消につながることを具体的な雇用制度と共に企業等に伝えていきます</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>先進的な雇用制度の発見と発信</li> <li>経団連等経済界へ提言</li> </ul>
社会	<p>RDワーカーが社会に広く認知されている</p> <p>（難病者の雇用が進むことで）柔軟性のある雇用環境が広がる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>時間的柔軟性のある雇用制度を導入する企業数</li> <li>休暇・時短取得の抵抗感減少（アンケート）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>RDワーカーという言葉と共に難病者就業の正しい知識を持たれるよう広く社会に働きかけます</li> <li>時間的柔軟性のある雇用制度の事例を発信します</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>白書発刊</li> <li>シンポジウム</li> <li>メディア露出</li> </ul>

両育わーど

研究会

# Activities

事業内容

## 認知啓発

障害や難病の  
「知らない」を知る

## 調査・ アドボカシー活動

政策提言や自治体単位での  
ロールモデル作り

## 難病者の 就労・社会参加の 機会拡大

多様な働き方の後押し

## THINK UNIVERSAL

「知らないを知る」

知る、体験する、対話するのステップを通して、障害や難病を超えて、自分について、社会について、ちょっと考えるきっかけを提供しています。今年度は新たな対話プログラムを企業や団体様向けに実施しました。

### ▶ 「THINK DIVERSITY ～知らないを想像する～」を企業・団体様向けに提供

本プログラムは、「難病者の生活や働くについて想像する」パートと、「答え合わせ、対話」パートに分かれています。情報通信業、障がい者の総合就職・転職サービスを行う企業、製薬会社の社員様向けに提供いたしました。

参加された方からは以下のようなコメントがありました。

制約との向き合い方に新しい視点を得ることができました。

病名から想像していた苦手な事得意な事がご本人の回答と全く違ったため、多岐に渡り、一人一人と会話してみないと分からないということを実感した。

当事者の方がとても前向きだったことが印象に残りました。

非常に貴重な体験をさせていただきありがとうございました。障害の有無に関わらず、個人の特性や障壁があることを意識して誰もが働きやすい環境になるよう考えていきたいと思えます。



### ▶ 難病の理解啓発プログラム開発

知る、対話するからもう一歩踏み込んだプログラム、ともに気持ちよく働き続けられる環境を作るための難病の理解啓発プログラムを開発中です。2025年度より企業様向けに提供予定です。

プログラムの提供、協働開発など、ご関心をお持ちの方はお問い合わせフォームよりご連絡くださいませ。

<https://ryoiku.org/contact/>

# THINK POSSIBILITY

## 「社会参加を身近に」

Think Possibility (TP) 事業では、難病者の就業状況や日々のストレスを可視化することにより、体調の安定化と継続就労を目指す新たな取り組みをスタートさせました。近いうちにアプリケーションとサポーターによる両立支援の提供を目指し、開発を進めています。

### ▶ 事業概要

セルフコントロールサービスは、体調に影響を及ぼす負荷の可視化を行い、それをもとに「わたしのトリセツ」を作成することを柱としています。

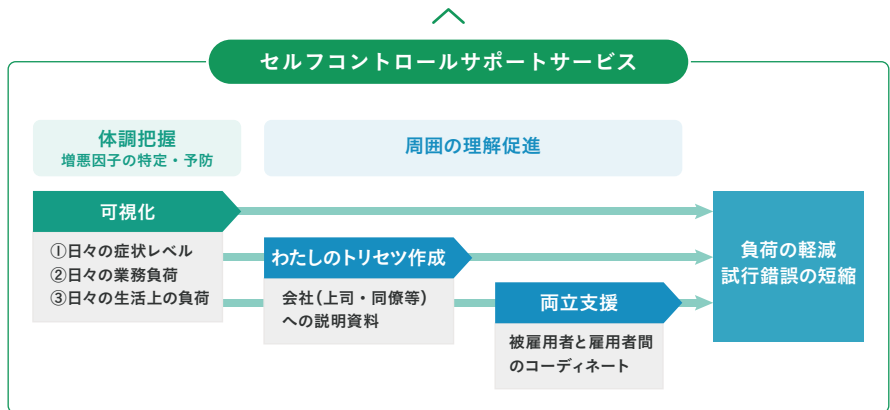
難病者自身が日々の症状や業務負荷を一定の期間、毎日記録します。可視化することによって、体調を把握しやすくなり、増悪因子の特定と予防に繋がります。

また、次のステップとして、会社の同僚や上司など周囲の人への説明資料である「わたしのトリセツ」を作成します(必要に応じて、第三者による両立支援等のサポートを行うことを想定しています)。

体調の安定化と周囲への理解促進により、継続的な就労を目指します。

**目標** 慢性症状のある難病者の症状や仕事・生活上の負荷を可視化することにより、QOLの向上・安定就労を目指す

**利用者** 就業継続している方・休職中で復職を希望する難病者



### ▶ セルフコントロールサポートサービス

- ファイザープログラム2年目助成
- Vision Hacker Association選出
- サービス開発のためのトライアル実施(2回実施・27名の難病者が参加)
- トライアル参加者の記録とインタビューから、ティップス集を作成(白書掲載予定)

### ▶ わたしのトリセツ

- セルフコントロールサポートサービスと併せてトライアルを実施当事者・非当事者併せて13人が参加
- トライアルをもとに、トリセツフォーマットを作成

**トライアル期間・方法**

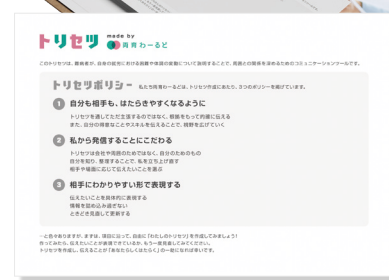
毎回2週間毎日体調や業務量などを記録  
(サポーターによる30分のヒアリングを2回実施)

症状と業務負荷のレベル分け

症状 10段階  
業務負荷 5段階

2週間毎日記録

ヒアリング①  
ヒアリング②  
TIPS集を作成

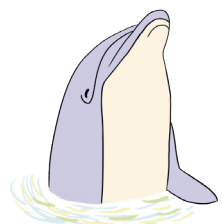


最新版「わたしのトリセツ」  
フォーマットはこちらから



### ▶ 2025年度目標

- セルフコントロールサポートアプリ簡易版完成
- 可視化ツールを含む解決モデルの構築
- 企業や支援機関へのプログラム提供





# 難病者の社会参加を 考える研究会

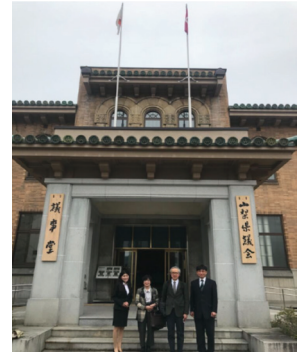
Think Possibility(TP)事業では、難病者の就業状況や日々のストレスを可視化することにより、体調の安定化と継続就労を目指す新たな取り組みをスタートさせました。近いうちにアプリケーションとサポーターによる両立支援の提供を目指し、開発を進めています。

## ▶ 難病者の社会参加を考える研究会活動

- 意見交換会の開催：4回
- ワーディングPJT：キャッチーな言葉を作って発信したい「RDワーカー」に決定
- トリセツPJT：難病者が職場で説明するためのトリセツの手引き・フォーマットを作成

## ▶ 地方行政から難病者の就労・社会参加の機会を増やすアプローチ

- 自治体人事課との懇談：2025年2月6日東京都港区、3月12日山梨県
- 党派を超えた「地方議員勉強会」をオンラインで継続実施
- 2023年から6回実施、延べ参加議員100名以上
- 勉強会から 累積15自治体×議会質問26回、国への意見書1回を実現  
袖ヶ浦市・焼津市・目黒区・三次市・鹿嶋市・山梨県・北区・津山市・伊丹市・荒川区・沼津市・木更津市・伊奈町・東京都・港区
- 議会質問がきっかけとなった実績(2024年度)
  - ・ 目黒区⇒難病カフェを定期開催
  - ・ 荒川区⇒荒川区議会が国会と政府宛に全会派一致で「難病患者の社会参加及び就労機会の拡充を求める意見書」を提出
  - ・ 山梨県⇒県正規職員採用試験に障害者枠とは別に難病患者枠を設定(全国初)、3名が合格し2025年4月入庁



## ▶ 難病者の就労をめぐる公開勉強会の開催

- 2024年12月14日開催『職場における 障害者・難病者の合理的配慮勉強会』  
難病当事者の青木志帆弁護士を招き、職場での合理的配慮の事例や課題点を話し合った



## ▶ 『難病者の社会参加白書2025』の制作

- 2025年夏完成予定
- クラウドファンディング「制度の狭間にいる難病者700万人の社会参加の選択肢を増やしたい」(白書の印刷費・発送費)を実施、目標400万円に対し支援者351名から支援総額426万円達成！(2024年12月～2025年2月)
- 制作作業に企業からプロボノ6名が参加
- 難病者の就労に関する調査を4種実施(当事者、企業人事、地方自治体、地方議員)
- コラムVOICE：16名執筆(元行政関係者、議員、企業、研究者・医療者、当事者、支援者等)
- 当事者エピソード：13名執筆(難病者やその家族)
- その他、国や地方自治体、企業での難病と就労に関する最新の動向等を掲載



## ▶ メディア・執筆等

- NHKハートネットTV『10月特集 働きたい～難病と企業の今～』  
初回放送日：2024年10月14日、代表の重光が出演、企画制作協力
- 山梨日日新聞：2025年2月8日掲載、難病白書の調査回答募集の記事
- 厚生省の雑誌『厚生労働』2024年7月号に紹介記事



コラボレーション企業、事業パートナー、患者当事者、プロボノとして協業しているみなさんから応援メッセージをいただきました。

## 立法



荒川区議会議員 夏目 亜季さん

私自身、難病やがんを経験しながら「自分らしく働くこと」を模索してきました。社会にはまだ、体調や特性によって働く機会が制限されてしまう現実があります。そんな中で、両育わーどなどの活動は“働くこと=生きること”を肯定し、誰もが尊重される社会への道しるべだと感じています。心から応援しています！



静岡県焼津市議会議員 秋山 博子さん

地方議会の議員として難病者の社会参加を一般質問で取り上げてきました。きっかけは、静岡県内女性議員の会「なないろの風」の仲間から紹介され議員向け勉強会に参加したことでした。そこで初めて、難病当事者である重光さんたちが作成し全国の自治体に送付した白書の存在を知り、制度の隙間が作った明らかに理不尽な状況に多くの人たちが置かれたままであることを、知りました。仕組みの問題であり、それを変えていくのは政治の仕事だと感じています。勉強会では激しい痛みと折り合いをつけながらご準備してくださる重光さんはじめ当事者の皆さんから勇気と力をいただいています。一人ひとり誰もが尊厳を持って生き合うことのできる社会に近づけますように！

## 企業



株式会社Box Japan  
シニアSP&Aマネージャー  
松原 明住さん

両育わーどさんを知ったきっかけは、イベント会場にあったTHINK UNIVERSALのポスターでした。難病者の方々が抱える難しさと彼らの生き生きとした姿が分かりやすく共存している洗練されたデザインにひとめぼれでした。その後、イベント主催者を介してお会いした代表の重光さんからお聞きした活動内容に共感し、Box社内で毎年実施するボランティア活動の日『Global Impact Day』に両育わーどさんをお招きしました。弊社社員向けに実施いただいたTHINK DIVERSITYやヒューマンライブラリー等のプログラムは参加者に、私と同じ共感を与えたのではないかと思います。今後もこれらの活動を通じて同様の共感が広がり、社会制度の狭間で働き難さを抱える方々が減っていくように応援しています。

## 協力団体



ペインクリニック医YouTuber/メディアアーティスト  
みおしんさん

「フルタイムじゃなかったら…」「午後勤務が許されるなら…」—そんな悔しさを抱え無理を続け、病状を悪化させた一人です。麻酔科専門医としても「週3日勤務必須」という現実には合わない条件のため、資格を手放しました。これは多くの難病者に共通する課題ですが、働き方が変われば未来も変わります。両育わーどはその変化の可能性を示してくれる希望の灯です。2024年度から関わられることを心から誇りに思います。



伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 福永 圭佑さん

両育わーど重光さんとは、難病者の就労や社会参加に関する調査や、健康管理アプリの要件定義支援などでご一緒しています。対話を重ねる中で感じるのは、「制度」や「データ」を語るときでさえ、常に「人」の姿があるということ。ご自身の経験を起点に、当事者と社会の間にある見えない壁を一つひとつ可視化し、言語化していく姿勢に、私自身も多くの刺激を受けています。難病者の就労や暮らしに関する支援は、大きな転換点にありますが、その一歩先を見据え、丁寧に現実を変えていこうとする両育わーど活動は、多くの人の意識を確実に動かしつつあると実感しています。技術やデータの力を通じて、社会の解像度を高める一助となれるよう、これからも共に歩んでいけたらと思います！

## プロボノ

## メンバー



近藤 菜津紀さん

私は、両育わーどに出会って、「はたらく」を見つめ直す機会をいただきました。難病があっても、工夫することで遣り甲斐をもって仕事をしてきましたが、日々の生活や業務の負荷を可視化する取り組みに参加し、新たな発見がありました。自分の生活を目に見える形にすることで、スケジュールなどを見直した結果、以前より少し体調が安定しました。また、自分の状態を深く理解することで、周りの人にも説明しやすくなりました。自己理解を深めたり、周りにわかりやすいように説明することは、難病者のみならず、誰もが自分らしくはたらくために重要なことだと思います。難病者がはたらきやすくなるための活動は、子育てや介護をしながらの仕事など「はたらく」ことに何らかの悩みを抱える全ての人のため、はたらきやすい世の中を作ることに期待しています。



小澤 広志さん

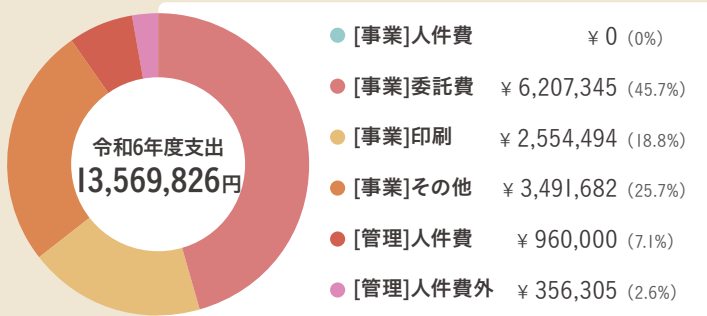
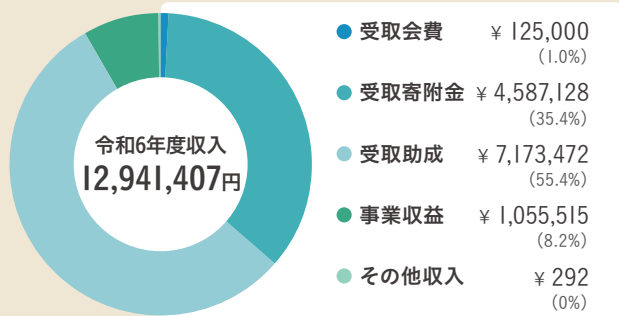
難病を抱える中、社会との接点を求めていた私が「両育わーど」と出会ったのは偶然のようで必然でした。ここには、障害や難病の有無に関わらず、互いに学び合い、支え合う温かなコミュニティがありました。参加を通じて、自分の経験が誰かの力になることを実感し、新たな一歩を踏み出す勇気を得ました。

# Accounting report 会計報告

## 令和6年度収支

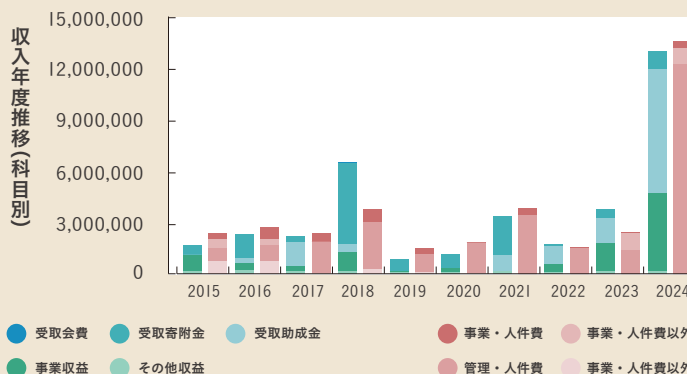
令和6年度は収支共に前年度比で大幅増になっています。主な収入(左図)は受取寄付金で4,587千円の35%、受取助成で7,137千円の55%で、このふたつで大半の90%です。これは白書作成のためのクラウドファンディングや助成金を得ていることが主たる理由です。尚、令和6年度の事業収入は1,055千円と昨年度の倍ですが、団体としては事業収入を増やすことが課題です。令和6年度は当初目標の通り組織体制や情報発信の強化、ロジックモデルの作成を進めてきています。主な支出(右図)は事業委託費6,727千円、印刷製本運搬等の白書作成関連3,450千円で、計10,177千円と支出全体の79%です。支

出面での当団体の特徴のひとつとしては、当事者の方が多いため、柔軟な働き方を採用しており、そのため働きやすいように業務委託形態を採用しています。事業委託の大半が業務委託形態になっているのはそのような背景です。自団体内の運用においても、社会課題を実践的に取り組みを進めている次第です。支出面の課題は収入同様で、事業費関連の増とそれに見合った支出というバランス経営です。令和6年度は当課題を踏まえて、各事業ごとにも引き続き組織体制強化や事業開発、ロジックモデルの実践で、課題解決への一歩を踏んでいます。



## 過去10年間の収支推移

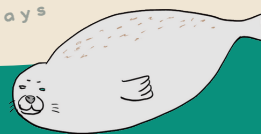
令和6年度は団体発足13年目で節目の年度で、前年度比3.4倍の収入で団体発足以降初の大幅増になっています。団体としても、第2の創業期と位置づけており、組織運営体制や、各事業活動や、政策提言、アドボカシー活動の強化を継続しています。これもひとえに、多くの応援や、協力して頂いている方々の御蔭と感謝しています。我々の団体の活動のスケールアップが、そのまま我々が目指すビジョンの実現と認識しております。令和7年度は、昨年度策定した中計の2年目になりますが、あらたなステージに向けて活動していく所存です。引き続き、皆様のご支援賜りたくお願い致します。



# Support 支援のお願い

\*認定NPO法人ではないため寄付控除の対象外です。

Thank you  
as always



### オンライン決済 (マンスリーサポーター)

月々500円から、継続的にご支援をいただけます。右記QRコードまたはキーワード検索より詳細をご確認ください。



詳細はウェブで確認

両育わーど 継続寄付 検索

<https://readyfor.jp/projects/ryoiku>

### 銀行振込

三菱東京UFJ銀行  
渋谷支店135 普通 口座番号0712658  
トクヒ) リョウイクワールド

ゆうちょ銀行  
店名〇一八 普通 口座番号3553143  
トクヒ) リョウイクワールド

### 「つながる募金」

100円から支援いただけます。SoftBankのスマートフォンをご利用の方は、月額使用料で請求され、毎月の継続的な支援、または1回限りの支援を選択いただけます。SoftBank以外のスマートフォンをお持ちの方は、クレジットカードでのお支払いとなります。



現在ボランティア、プロボノ、業務委託など多様な形態で30名前後のメンバーが活動しています。

障害や難病のあるご本人、ご家族、その他関係者、取り組みに関心のある方々がそれぞれの持ち味を活かして関わっています。

活動に関心をもっていただけましたら気軽にご連絡下さい。



# Our Message 団体からのメッセージ

## 代表メッセージ

理事長 重光喬之



おかげさまで、当法人は2025年4月に設立14期目を迎えることができました。私たちの活動は、知的障害児者の療育現場のお手伝いから始まりました。紆余曲折を経て、障害者・難病者の就労や社会参加の選択肢を増やそうと当事者が社会に働きかける団体になりました。

設立当初は、障害や難病のあるメンバーはごく少数でしたが、現在では多くが当事者ご本人やご家族となり、多様な立場から活動に取り組んでいます。24年は60名弱の仲間と取り組んできました。パラワークのメンバーが大半で、フリーランスや起業、企業からのプロボノなど関わり方も様々です。

医療・福祉の進展により症状の寛解や状況の改善、就業や雇用の形態も多様化など課題はあれど、これまで働くことを諦めていた人たちが働きたいと思えば働ける社会、時代になってきたように思います。そのような時代の変化の中で長いであろう人生、社会と関わり、生きていく中の選択肢として、いろいろな働き方があるのだなと仲間と働きながら実感する日々です。反面、正規職員やフルタイムでの働き方が、まだまだ評価や社会保障制度のベースになっています。

「まずは自分たちから実践を」との思いから、昨年より時間的に柔軟な働き方の試行錯誤を始めました。多くのメンバーが週0〜8時間で働き、体調変化などにより仕事が担えなくても、組織として事業を進めていく方法を模索しています。限られた時間の中での取捨選択、業務以外でのコミュニケーションの取り方、報酬のあり方などチャレンジは山積みです。

24年12月からはじまった厚労省の『今後の障害者雇用促進制度のあり方を考える研究会』にて、難病者の就労、障害者雇用の適用についての議論が始まりました。地方自治体に目を向けると、各地で難病と就労に関する議会質問が相次いでおり、山梨県ではおそらく全国初となる、難病者を対象とした自治体正規職員の採用枠の募集が始まりました。今春より就業を始められた難病の職員がいらっしゃるそうです。

21年の第一弾白書発行時よりもメディアや行政・立法が、難病と就労について取り上げているのを度々目にするようになりました。これまで活動を続けてきて、難病と就労を取り巻く一番の課題は、『難病者の実際の姿』と『社会がイメージする印象』との乖離だと強く感じています。難病者の病気を理解して欲しい気持ちと、雇用者の過度の不安や配慮により、実際に関わってお互いを知るはじめての一步が中々踏み出せないように思います。

まずは関わってお互いを知るところから、様々な方法で根気よく、当事者と社会双方が歩み寄ることで、少しずつ進展していくのだろうと考えます。私たちは障害や難病のある人が柔軟に働ける社会は、誰もが安心して働き暮らせる社会だと信じ活動を続けています。

24年冬には、クラウドファンディングを通じて多くの皆様より温かいご支援をいただきました。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。今夏には、『難病者の社会参加白書2025』を皆様のお手元にお届けできると思います。今しばらくお待ちくださいませ。

## 理事メンバーよりメッセージ

理事・会社員 岩野範昭



本年度の年次報告書も多くの皆様のおかげで、無事に完成いたしました。皆様方の日頃からの応援にも感謝申し上げます。団体設立から14年目を迎えました。今回、編集を担当する中でも、我々の団体のビジョン・ミッションがより一層社会で求められているのを強く感じています。中期計画2年目に入っていきますが<両育のある社会>を目指して、メンバー一丸となって活動していきます。



Message



# About 両育わーどについて

## 団体概要 (2025年5月現在)

名称	特定非営利活動法人 両育わーど
所在地	〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-26-16 第5叶ビル5F co-ba shibuya内
設立	2012年11月12日
役員	理事長 重光喬之(難病患者) 副理事長 岩野範昭(会社員) 理事 岩本真実(キャリアコンサルタント) 理事 須崎利雄(会社員) 監事 池田良博(税理士) 参与 斉藤幸枝(元フリースクール長、難病患者家族) 参与 新宅圭峰(産業カウンセラー)
会員数	11名
事業内容	THINK UNIVERSAL事業 THINK POSSIBILITY事業 「難病者の社会参加を考える研究会」の運営
年次報告等	今年度の報告書リンク
加盟団体	ショートタイムワークアライアンス(賛同) 一般社団法人 日本難病・疾病団体協議会(準加盟)

## 沿革

- 2011.2 ● 有志6名で「療育は両育プロジェクト」として活動開始。
- 2012.11 ● 特定非営利活動法人格取得。調布市内の福祉現場の課題解決を活動拠点として関係者と協働実施。放課後等デイサービス及び就労継続支援A型の新規開設・運営サポートなどを実施。
- 2015.12 ● 両育サポーター事業開始。
- 2016 ● THINK UNIVERSAL事業開始。  
非交流エピソード共有サイト「feese.jp」立ち上げ(後のTHINK POSSIBILITY事業)。
- 2017.2 ● 東京都教育委員会オリパラ教育推進支援事業プログラム提供開始。
- 2018.10 ● 難病者の社会参加を考える研究会発足。
- 2021 ● 『難病者の社会参加白書』を作成し、全国1915自治体へ配布。一般社団法人 日本難病・疾病団体協議会(JPA)に準加盟。
- 2022 ● 「難病者の働き方データベース」の作成に向けて「はたらく難病ラボ」開始。
- 2023 ● 難病者の社会参加を考える議員勉強会発足
- 2024 ● THINK DIVERSITY PROGRAM提供開始

## Media メディア掲載 (2024年4月～2025年3月)

- 2024年04月05日 **書籍出版** 京都大学出版 『語りの場からの学問創成: 当事者、ケア、コミュニティ』 一部執筆・重光
- 2024年04月05日 **ネットメディア** プレスリリース 難病者が働きやすい社会を。「SoilxPolicy Fund」基金、NPO法人両育わーどに支援決定
- 2024年05月01日 **ネットメディア** Yahoo!ニュース 【闘病】ずっと「異常なし」だった激痛の正体「脳脊髄液漏出症」だったとは…
- 2024年06月04日 **ネットメディア** メディア116 山梨県から届いた嬉しいニュース!「難病者の働く」が世の働き方を変える
- 2024年07月01日 **雑誌** 厚生労働7月号 居場所第4回 障害者・難病患者支援
- 2024年10月14日 **テレビ出演** ハートネットTV「難病と企業のいま」
- 2025年01月06日 **ネットメディア** NIKKEI BizGate 働き方最前線 「障害者の力」をビジネスに SYNC25開催1年前イベント 開催リポート
- 2025年02月08日 **新聞** さんちEye(山梨日日新聞デジタル) 難病者の就労、社会参加は 支援者らでつくる研究会がアンケート



# あたたかなご支援をありがとうございます

## [ ご支援いただいている皆様 ]

クラウドファンディング 難病者の社会参加白書2025作成にご支援下さった351名・法人・団体の皆さま

助成金 思いをつなぐ次世代応援プログラム／第一三共株式会社  
「患者の声を届けよう」支援プログラム／PPCIP  
キリン・福祉のちから開拓事業／公益財団法人キリン福祉財団  
Soil x Policy Fund／株式会社PoliPoli  
難病患者サポート事業／一般社団法人 日本難病・疾病団体協議会  
Vision Hacker Association／公益財団法人葉田財団  
ファイザープログラム／ファイザー株式会社

賛助 ノックオンザドア株式会社

寄付 Your Choice Challenge／JAPAN COMMUNITY IMPACT

プロボノ 株式会社ゼネラルパートナーズ  
ソフトバンク株式会社

発行者 特定非営利法人 両育わーるど

発行日 第一版 2025年8月8日